日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所
162-0805　東京都新宿区矢来町 65
電話 03（5228）3171　FAX 03（5228）3175
発行者　総主事　司祭　相澤 牧人

九州教区の伝道・宣教 150 年の記録を見て思うこと

九州教区主教　ガブリエル 五十嵐正司

ウィリアムズ司祭（後に主教）が米国聖公会からの日本伝道任命書を携えて長崎に上陸したのが 150 年前のことでした。日本聖公会の伝道開始は九州教区の伝道開始の年でもありますので、九州教区においても 4 月 29 日に長崎聖三一教会において 150 年感謝礼拝をいたします。

この時にあたって 150 年前からの諸先達の伝道・宣教を思い巡らし、記録を読みながら、諸先達の心に触れる思いがいたしました。感動しつつも、また叱咤激励されます。

ウイリアムズ師のご苦労は様々に聞いてきましたが、その他の初代の宣教師たち、伝道師たちの働きもご苦労を通してのものでした。ヨクゾ、そこまで頑張ることができた、と先ずは驚きます。そして、そのように導かれた聖霊なる神様の活発なお導きを思います。

新しい日本を造ろうとする時代にあって、キリスト教は耶蘇教と反発されながらも、期待され、求められるものも多かったのでしょう。反発と期待の中でのキリスト教伝道は宣教師、伝道師たちに双方の出来事を経験する時でした。1856 年（安政 3 年）佐賀に生まれた洪恒太郎司祭（九州教区で最も古い聖職）が熊本伝道をした時の記録は次のように記されています。「過去四十有余年間、最も伝道の困難なりしは熊本にして、屋上に石の飛来せぬ日とては殆ど希なる位なりしが、収穫の多かりしも亦熊本なりし。」

英国の宣教師として来日したフリース師は 1909 年（明治 42 年）から 1941 年（昭和 16 年）まで九州で伝道活動をされました。阿蘇地方の町や村で福音伝道されたのですが、同師は阿蘇の山路をわらじばきで歩いて行かれたと記されています。地理を知る者にとっては考えられない程の長距離を歩かれたとのこと。同師の福音伝道の情熱は火の国、阿蘇のそれにも劣らぬものと感嘆する記録があります。

戦争中の困難さ、戦後復興の働きを記録に見ますと、聖職に限らず、多くの信徒の苦労と献身的な働きがあったことも知ら

□会議・プログラム等予定

（前回報告以降追加
および 4 月 25 日以降）

4 月
- 14 日（火）正義と平和・憲法プロジェクト
- 14 日（火）宣教協働者招聘委員会
- 23 日（木）正義と平和・憲法プロジェクト作業会
- 24 日（金）青年委員会
- 27 日（月）～ 28 日（火）文書保管委員会および作業会
- 28 日（火）法憲法規委員会

5 月
- 1 日（金）渉外主査会
- 1 日（金）主事会議
- 8 日（金）宣教 150 年記念礼拝実行委員会礼拝部会
- 8 日（金）聖書スコポス理論検討会
- 12 日（火）ウィリアムズ主教記念基金運営委員会（立教）
- 14 日（木）宣教 150 年記念礼拝実行委員会
- 14 日（木）青年委員会
- ~~15 日（金）年金維持資金管理委員会~~(6 月 12 日延期)
- 17 日（日）～ 18 日（月）各教区正義と平和担当者会（聖バルナバ教会）
- 18 日（月）正義と平和委員会
- 20 日（水）統計表見直し検討会
- 25 日（月）～ 26 日（火）文書保管委員会
- 28 日（木）礼拝委員会
- 29 日（金）管区人権担当者会

6 月
- 1 日（月）プレ宣教協議会実行委員会
- 1 日（月）宣教 150 周年プログラム実行委員会
- 3 日（水）広報主査会
- 3 日（水）主事会議
- 12 日（金）年金維持資金管理委員会
- 16 日（火）～ 18 日（木）第 187（定期）主教会
- 19 日（金）～ 22 日（月）沖縄の旅（沖縄週間
- 21 日（日）～ 27 日（土）沖縄週間

（次頁へ続く）

されます。戦後は外国聖公会の仲間との宣教協働があり、九州教区も米国聖公会西テキサス教区との協働、大韓聖公会大田教区との協働、フィリピン中央教区との協働と、世界の聖公会仲間と共になり教会形成、教会活動を模索する動きがありました。

大韓聖公会、フィリピン聖公会の仲間との協働は、日本および日本聖公会の歴史的出来事に目を向けさせてもらい肌で感じる学びの時が与えらました。

世俗化した現在の日本では、明治時代、戦後の時代とは違って、人々が教会に求めるものは少ないようです。生き生きした命をこの世的なものに求める思いの方が勝っているのでしょうか。それ故にか、この世では生きていられないと自死して行く人が毎年3万人もいる社会は生き難い社会です。人が神様に愛され、お互いに愛し合って生きていくことが人の生きる道であるという、教会の基本的なメッセージを、今、何とか伝える試行錯誤が必要なのでしょう。

ヨハネ13章34節「あなたがたに新しい掟を与える。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」

日本社会に何とかキリストのメッセージを伝えようと、神様に祈り求めながら、様々に試行錯誤をされたウィリアムズ主教を始め、この150年間の諸先達の思いと言葉と行動を思い巡らしながら、わたしたちも試行錯誤を継承していきたいと願います。

（前頁より）

29日（月）～30日（火）文書保管委員会および作業会

＜関係諸団体会議等＞

4月23日（木）日本キリスト教連合会常任委員会・総会
5月7日（木）第26回庭野平和賞授賞式
13日（水）都宗連（東京グランドホテル）
22日（金）キリスト教文書センター理事会

武器を捨てるということ

―憲法記念日を迎える前に思う―

管区事務所総主事　司祭　ヨハネ 相澤 牧人

5月。「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。」（マタイ5:9）というイエス様のみ言葉を生きようとする者にとって、忘れてはならない日がある。5月3日、憲法記念日。

日本聖公会正義と平和委員会の憲法プロジェクトは、先日各教会に代祷依頼とともに一枚のポスターを送った。そしてそれは各教会で掲示されていることでしょう。そこには、『戦争を放棄し、平和と共生を求める日本国憲法を想い、いま、主を信じる私たちを「神の国」実現のために、ともに働く道具としてください。』と記されている。日本国憲法、ことに9条はキリスト者にとって非常に重要なものではないかと思う。（厳密には人間にとって、と言えよう。）

命の尊さを生きる私たちは、それを破壊することに対して肯定することは出来ない。憲法9条に明言されている『交戦権の否認』は尊い生き方であり、それを実現することは人間の尊厳を確かなものとする。以前、沖縄週間／沖縄の旅に参加したとき、ダグラス・ラミス師の講演で交戦権の意味を学んだ。交戦権とは、国家の戦争で人を殺す権利のこと。この戦争で人を殺しても逮捕されない、非難されない、罪悪を感じな

くても良い、ということを意味しているとのこと。この権利を放棄しているのが交戦権の否認である。憲法 9 条2項に「国の交戦権は、これを認めない」と明記されている。そしてこれは今も生きていて、このおかげで日本は 60 年余戦争をしなかった。そこに何か不便なことがあっただろうか。命に代わるほどの不自由があっただろうか。

この思いを深めてくれるひとつの話に出会った。それはアラスカで活躍した星野道夫という若くして世を去った写真家の生き方である。

『彼の写真がすごいのは、動物に肉薄しているところ。アラスカの野生動物の中で一番獰猛なのが熊です。普通、写真家はものすごく離れたところから、望遠レンズで撮る。だが、星野道夫が撮った写真は、すごくいい表情している、熊さんが。なぜか?　ものすごく近寄っているから。6 m!　子育て中の熊の母親の目が優しい。ものすごく近寄っているからそれを撮れる。なぜ彼にだけできたのか?

彼も最初はこんな写真は撮れなかった。最初は、襲われたときのことを考えて片手に鉄砲、片手にカメラ。100 m位近づくと、熊が逃げるか威嚇するかどっちかで近寄れなかった。ところがある日、彼は気づく。「鉄砲を置いていってみようか。」そして熊を見つけた。カメラを構えて近づいていく。いい 写真を撮ろうと、どんどん近づいて行った。気がついたら6mまで近づいている。でも熊は自分を脅そうともしないし、危害を加えようともしない。まったく自分がいるもいないも同じように、自然にふるまっている。鉄砲を持っていないということを野生の動物もわかるわけ。こいつは自分に危害を加えない、だったら別にいいじゃないか、熊がそうなっていった。それを彼自身が体得した。

彼の例を見てもわかるように、結局人間だって動物だって同じ。こっちが鉄砲を持つ、武装すると相手だって武装する。恐ろしいと思う。冷戦時代のアメリカとソ連がそうだった。ソ連が核兵器を持っている、だからアメリカはもっと核兵器を増やそう。するとソ連はアメリカが増やすからそれより1基でも増やそう。こうやって軍拡競争が続いた。

あるいは、日本と北朝鮮がそうだ。北朝鮮が核兵器持っているぞ、だから日本も核武装しなきゃ、憲法9条なんか邪魔だ、こういう論理。そうすると北朝鮮は、もっと核兵器を持たないと。また中国が、日本が核武装化したぞ、大変だ、もっともっと、という話になってしまう。軍拡というのはそういうふうに起きる。

つまり星野道夫の鉄砲と同じで、1人が鉄砲を持つと、相手が持つことによってこっちも持っておこう、となる。でも、武器を置けば，相手も静かになるわけ。それを僕は、星野道夫の話を聞いて、ああそうだ、そういうことがあるんだなと思った。(伊藤千尋講演より)』

示唆に富んだ話ではないだろうか。「平和を実現する者」が見据えるところのひとつを教えてくれていると思う。私たちキリスト者は神の国の完成に向かって歩を進めていくことが求められているのだということは自明のことであろう。ゆえに、今年もまた憲法記念日を迎える5月に、イエス様の教えに従い、それを生きようとする私たちが、平和憲法を実践していくことの大切さに、思いを新たにしていきたいものだ。それが「神の国」(命を大切にするところ) の実現に向かうと思うからである。

□常議員会

第57（定期）総会期第5回　4月23日（木）
〔主な議題〕

1. 常議員辞任願いの件
   山野繁子司祭の辞任願いを受理（次点の大町信也司祭繰上げ）
2. 女性に関する課題の担当者（女性デスク）辞任願いの件
   山野繁子司祭の辞任願いを受理
3. NCC宗教研究所理事推薦の件
   高地 敬主教を推薦
4. NCC第37回総会期常議員追加推薦の件
   常議員の輿石 勇司祭（北関東）が議長に再選されたため、前田良彦司祭（東京）を推追加薦
5. 2008年度管区一般会計決算案承認の件（責任役員会決議）
   承認

次回常議員会
　7月1日（水）

□主事会議

第57（定期）総会期第9回　4月1日（水）
〔主な協議事項〕

1. 女性デスク、ジェンダープロジェクト、人権委員会の任務・分掌事項の整理に関して（継続協議事項）
2. AC環境ネットワークより、環境担当者窓口設置について
   正義と平和委員会委員長に確認
3. 日本聖公会150周年記念「日本聖公会聖歌集」CD制作に関して
   宣教150年記念礼拝実行委員会の決定（分掌）事項であることを確認
4. 2008年管区一般会計決算について
   承認
5. 日韓教会連合統一協会問題対策セミナー（4月30日～5月1日、釜山）派遣者について
   卓 志雄執事を派遣
6. 日本盲人キリスト教伝道協議会理事推薦について
   大森明彦執事を推薦
7. 首座主教海外出張について

次回以降の会議
　5月1日（金）、6月3日（水）

□各教区

・聖職按手式　5月16日（土）10時半　北海道教区主教座聖堂（札幌キリスト教会）　執事按手　志願者：聖職候補生 ヨハネ池田亨、聖職候補生 サムエル吉野暁生

東京

・第108（定期）教区会（3月20日）選出常置委員：司祭 大畑喜道（長）、司祭 笹森田鶴、司祭下条裕章、〈補欠・司祭 山口千寿〉、松田正人、松平健次、黒澤圭子〈補欠・井出大史〉

中部

・可児ミッション開所式　3月28日（土）14時　岐阜県可児市広見4-12

大阪

・聖霊降臨日 前夕の礼拝（ペンテコステ ヴィジル）5月30日（土）　カトリック大阪カテドラル聖マリア大聖堂（カトリック玉造教会）
司式：大西修主教（日本聖公会）、井上隆晶牧師（日本基督教団）、松浦悟郎司教（カトリック大阪大司教区）　説教：福田光宏司祭（日本聖公会）

2009年 沖縄週間／沖縄の旅

命（ぬち）どぅ宝（たから） ～本当に武力は必要か？～

6月19日～22日（月）

那覇市内ウォーキング・基調講演（池住義憲氏：イラク派兵違憲訴訟の「違憲判決」について、ほか）・辺野古新基地建設阻止活動に参加・分かち合い・慰霊の日礼拝・交流会・南部戦跡見学　など　申込締切：5月11日 管区事務所正義と平和委員会宛
（詳細は各教会へ送付済の案内をご覧ください）

九州

・日本聖公会宣教 150 周年・九州教区感謝礼拝　4 月 29 日（水）11 時　長崎聖三一教会　司式・五十嵐主教　説教・タクロバオ主教（フィリピン中央教区）

† 逝去者　霊魂のパラダイスにおける光明と平安を祈ります。

ヘレナ浅見テル（北関東教区、元伝道師）
2009 年 4 月 1 日（水）逝去（98 歳）

ヨハネ中川秀恭（東京教区、元総会信徒代議員）2009 年 4 月 26 日(日) 逝去(101 歳)

《人　事》

東北

司祭 ヤコブ林 国秀	2009 年 3 月 31 日付	米沢聖ヨハネ教会管理牧師の任を解く。
	2009 年 4 月 1 日付	磯山聖ヨハネ教会管理牧師に任命する。
司祭 ステパノ涌井康福	2009 年 3 月 31 日付	磯山聖ヨハネ教会管理牧師の任を解く。
	2009 年 4 月 1 日付	米沢聖ヨハネ教会管理牧師に任命する。

東京

司祭 バルナバ関 正勝	2009 年 3 月 31 日付	定年により退職。目白聖公会協力司祭解任
	2009 年 4 月 1 日付	目白聖公会嘱託司祭委嘱
司祭 イマニュエル木下量熙	2009 年 3 月 31 日付	千住基督教会牧師解任
	2009 年 4 月 1 日付	主教座聖堂付千住基督教会勤務任命
司祭 ヨナタン長谷川正昭	2009 年 3 月 31 日付	東京聖十字教会管理牧師解任
	2009 年 4 月 1 日付	千住基督教会管理牧師任命
司祭 ヨハネ神﨑雄二	2009 年 4 月 1 日付	月島聖公会管理牧師任命。月島聖ルカ保育園チャプレン任命
司祭 ペテロ井口 諭	2009 年 3 月 31 日付	月島聖公会管理牧師解任。月島聖ルカ保育園チャプレン解任
	2009 年 4 月 1 日付	東京聖マルチン教会管理牧師任命
司祭 マリア山野繁子	2009 年 3 月 31 日付	東京聖マルチン教会管理牧師解任
司祭 ジェームス須賀義和	2009 年 3 月 31 日付	東京聖十字教会副牧師解任
	2009 年 4 月 1 日付	東京聖十字教会牧師任命
聖職候補生 ジョン・ストーゼンバック		
	2009 年 3 月 31 日付	東北教区宣教協働者解任
	2009 年 4 月 1 日付	聖マーガレット教会勤務命令
聖職候補生 ダビデ倉澤一太郎	2009 年 3 月 31 日付	聖パウロ教会勤務解任
	2009 年 4 月 1 日付	聖愛教会勤務命令
聖職候補生 塚田重太郎	2009 年 4 月 1 日付	聖アンデレ教会勤務命令
司祭 ビカステス今井烝治（退）	2009 年 4 月 1 日付	八王子地区コミッショナー委嘱
司祭 バルトロマイ竹内謙太郎（退）		
	2009 年 4 月 1 日付	東京聖テモテ教会嘱託司祭委嘱

司祭 サムエル岩前 宏（退）	2009年4月1日付	八王子復活教会嘱託司祭委嘱
司祭 イサク小笠原愛作（退）	2009年4月1日付	小笠原聖ジョージ教会嘱託司祭委嘱
司祭 ペテロ吉村庄司（退）	2009年4月1日付	社会福祉法人滝乃川学園嘱託司祭委嘱

京都

司祭 アンデレ佐藤 徹（退）	2009年4月1日付	司祭パウロ北山和民のもとで、田辺聖公会愛の園シオン会礼拝堂において嘱託司祭として勤務することを委嘱する。 神愛修女会での聖典執行を許可する。
司祭 バルトロマイ三浦恒久	2009年4月30日付	京都聖ヨハネ教会管理の委嘱を解く。
司祭 マルチン韓 相敦	2009年4月30日付	京都聖ヨハネ教会副牧師の任を解く。
	2009年5月1日付	京都聖ヨハネ教会牧師に任命する。

大阪

司祭 ヨハネ成田邦雄	2009年3月31日付	大阪聖パウロ教会牧師及び聖贖主教会管理牧師を解任。
	2009年4月1日付	主教座聖堂付に任命。
主教 サムエル大西修	2009年4月1日付	聖贖主教会管理牧師に任命。
司祭 ダニエル山野上素光	2009年4月1日付	大阪聖パウロ教会管理牧師に任命。
司祭 パメラ・A・クーパー	2009年3月31日付	CMSの定年により退職とする。
執事 アンデレ田宮 紘	2009年3月31日付	聖ルシヤ教会牧師補を解任。
	2009年4月1日付	主教座聖堂付とし、釜ヶ崎地域の宣教担当に任命。
司祭 ペテロ岩城 聰	2009年3月31日付	プール学院の非常勤チャプレンを解任。
	2009年4月1日付	聖ルシヤ教会牧師（兼任）、及びプール学院チャプレンに任命。
執事 フランシス趙 鍾必	2009年4月1日付	プール学院の非常勤チャプレンに任命。
司祭 ウィリアムス竹内信義	2009年3月31日付	庄内キリスト教会管理牧師を解任。
	2009年4月1日付	庄内キリスト教会牧師（兼任）に任命。
主教 ヤコブ宇野 徹（退）	2009年4月1日付	主教サムエル大西修のもと聖贖主教会における嘱託司祭、及び、社会福祉法人博愛社におけるチャプレンを委嘱。
司祭 ペテロ松山龍二（退）	2009年4月1日付	司祭ペテロ齋藤壹のもと聖ガブリエル教会における主日を中心とする嘱託司祭を委嘱。
司祭 ダニエル小池虔二（退）	2009年4月1日付	司祭ヨハネ鍋島守一のもと富田林聖アグネス教会における主日を中心とする嘱託司祭を委嘱。
司祭 サムエル坪井克己（退）	2009年4月1日付	司祭ダニエル山野上素光のもと大阪聖パウロ教会における主日を中心とする嘱託司祭を委嘱。
司祭 サムエル松岡虔一（退）	2009年4月1日付	司祭ヨシュア原田光男のもと聖ルカ教会における主日を中心とする嘱託司祭を委嘱。
クリストファー奥村貴充	2009年4月1日付	日本聖公会聖職候補生に認可

ヨハネ古澤秀利	2009 年 4 月 1 日付	日本聖公会聖職候補生に認可
ジョイ千松清美	2009 年 4 月 1 日付	日本聖公会聖職候補生に認可
ジョージ林 正樹	2009 年 4 月 1 日付	日本聖公会聖職候補生に認可

神戸

聖職候補生 オーガスチン與賀田光嗣

	2009 年 3 月 20 日付	神戸聖ミカエル教会勤務の任を解く。
	2009 年 3 月 21 日	執事に按手される。
執事 オーガスチン與賀田光嗣	2009 年 3 月 21 日付	神戸聖ミカエル教会牧師補に任命する。
聖職候補生 ヨシュア長田吉史	2009 年 3 月 20 日付	広島復活教会勤務の任を解く。
	2009 年 3 月 21 日	執事に按手される。
執事 ヨシュア長田吉史	2009 年 3 月 21 日付	広島復活教会牧師補に任命する。
執事 ダビデ林 和広	2009 年 3 月 20 日付	倉敷伝道所牧師補の任を解く。
	2009 年 3 月 21 日	司祭に按手される。
司祭　ダビデ林 和広	2009 年 3 月 21 日付	主教アンデレ中村豊管理のもとで、倉敷伝道所勤務を命じる。
司祭 ヨハネ芳我秀一	2009 年 3 月 31 日付	神戸聖ペテロ教会管理牧師の任を解く。
司祭 ペテロ中原康貴	2009 年 3 月 31 日付	高松聖ヤコブ教会牧師の任を解く。
	2009 年 4 月 1 日付	神戸聖ペテロ教会牧師に任命する。
主教 アンデレ中村 豊	2009 年 4 月 1 日付	高松聖ヤコブ教会管理牧師に任命する。
司祭 ペテロ・パウロ 柳本博人	2009 年 4 月 1 日付	立教学院のへの出向期間を延長する。 出向期間：2009 年 4 月 1 日～ 2012 年 3 月 31 日

沖縄

司祭 ベネディクト高 英敦	2009 年 3 月 1 日付	ソウル教区より受け入れ、教区主教のもと勤務することを任命する。
司祭 ヨナ成 成鍾	2009 年 3 月 31 日付	島袋諸聖徒教会牧師の任を解く。沖縄教区との雇用契約を終了する。
主教 ダビデ谷 昌二	2009 年 4 月 1 日付	島袋諸聖徒教会の管理牧師に任命する。
執事 イサク岩佐直人	2009 年 4 月 1 日付	島袋諸聖徒教会において管理牧師主教ダビデ谷昌二のもと牧師補として勤務することを命ずる。
ルシア並里輝枝	2009 年 2 月 26 日	日本聖公会聖職候補生に認可。

《施　設》

立教学院　2009 年 4 月 1 日付、主教 佐藤忠男（前東北教区主教）チャプレン長に就任

第53回UNCSW（国連婦人の地位委員会）に参加して

東京教区　葛飾茨十字教会　佐々木 紀久江

皆様のお支えとお祈りにより、ニューヨークで開催されました第53回UNCSWに吉松さち子さんと共に参加させていただきました。通訳なしの国際会議は初めてで当初お断りしましたが、「大丈夫、参加することに意味があるのだから」との声に押され参加したものの、朝8時より各教派、グループによるいろいろな形のエキュメニカル礼拝に始まり、国連本会議傍聴ならびに同時進行で行われる各NGOのイベントやセミナー、ACC独自のプログラムと一日4～5の催しに参加、毎日のレポート提出と英語力の乏しさを大いに思い知らされた2週間余でした。

ACCの会合では女性達の教会での取り組み特にアフリカの女性の明るさ、パワーに圧倒されました。また、世界各地の教会が積極的に貧困や男女の役割、性教育にも取り組んでいることに驚かせられました。特に印象に残ったのはコロンビアのご夫妻のレポートで、教会が青少年のグループに今回のテーマ（HIV/AIDSのケア提供を含む男女間の責任分担）である問題にも単にHIV/AIDSの知識・予防の教育だけでなく、その感染者に対する差別、偏見を持つことなく接する大切さを強調し、性の面でも男女お互いに尊重する教育がなされていることでした。その実態を映像を含めて妻がポルトガル語で発表、夫が通訳・映像でサポートと、仲良くまさに男女平等の役割分担の姿を目の当たり示してくれたことも心に残りました。日本でも厚生労働省の発表にもあるように、年々性交渉の低年齢化と共にHIV/AIDSの感染者が増加しつつあり、若い世代への教育の必要性を感じます。

世界中で先進国・開発途上国に問題の差はあるにせよ、教会が積極的に様々な問題に取り組み、若い世代に信仰をバトンタッチしていく努力をしていることを目の当たりに体験できましたことを感謝すると共に、今回の経験を今後に生かして生きたいと思っています。

東京教区　聖オルバン教会　吉松 さち子

10,000人を超す参加者、NGOは過去最多数の参加

「第53回国連婦人の地位委員会」（The 53rd United Nations Commission on the Status of Women: 以下CSW）が3月2日から13日までニューヨークの国連本部で開かれ、日本聖公会を代表して東京教区の佐々木紀久江さん（葛飾茨十字教会）と吉松さち子（聖オルバン教会）が参加しました。

会議に先立って2月27日から予備セッションが開かれました。ニューヨークはまだ真冬の寒さで、3月に入っても気温は零度前後、凍えるような毎日でした。

今年の企画タイトルは「HIV/AIDSのケア提供を含む男女間の責任分担」。

本会議には各国の政府代表が5,281名、NGOの代表団が約5,000名参加しました。NGOの「聖公会中央協議会」（The Anglican Consultative Council：以下ACC）からは、世界各国より108名の女性達が参加しました。

NGO としては過去最多団体の参加でした。

日本からも日本女性監視機構（Japan Women's Watch）、JICA、国境なき医師団や日本各地の介護団体等多数の NGO が参加しました。

「日本女性監視機構」は、2008 年に 10 回にわたり今回のテーマについて、各分野の専門家による研究会を開催し、準備をしてきたそうです。

国連本会議場では、各国の政府代表が毎日、午前 10 時から午後 4 時近くまで発表し、その間、他の会議室では世界中の NGO の参加団体の発表がありました。

会期中には、国連の潘基文（Ban Ki-moon）事務総長、米国聖公会の Katharine Jefferts Schori 総裁主教も顔を出して参加者の労をねぎらってくれたほか、ニューヨーク教区の Mark Sean Sisk, Egbert Don Taylor, Catherine S Roskam の三人の主教は、ACC からの参加者と食事を共にして激励してくれました。

最終日には今回の会議を総括する声明が発表され、10 日間にわたる会議を閉じました。

なお、来年は「女性の健康」をテーマに開かれるということです。

NGO「プレイス・東京」の取り組み

教会の HIV/AIDS の取り組みの一つである「聖公会 AIDS プロジェクト」には、NGO の HIV/AIDS に係わっている「プレイス・東京」の助けが大いにありました。「プレイス・東京」は今回の国連の企画タイトルの「ケア・ギビング」を NGO のプログラムとしてすでに実行しています。

子どもが HIV/AIDS に罹った母親のためのグループがあることも、日本独特のものであるという報告をしました。家族の絆、特に子どもと母親とのつながりが顕著に見られるのもアジア特有のものではないかという気がします。

日本の NGO の参加者の発表は HIV/AIDS の問題より、むしろ高齢化社会における介護や、介護保険の問題、産休・育児休業における会社の不利益という社会問題の発表に重点が置かれていました。アジアの NGO からは日本の NGO が情報発信のネット・ワーキングをするように要請を受けていました。

日本の「老人介護」に関しての発表のとき、傍聴に来ていた韓国からのある参加者が「韓国では老人の介護は、その子どもがするのは当然のことで、儒教精神が韓国の人々の心の底にはあるのだ。」と述べていたのが大変印象に残っています。

ACC の各国参加者のスケジュール

2 月 28 日と 3 月 1 日は、約 30 数カ国の参加者が事前に提出したレポートを順次発表しました。質疑・応答の時間も設けられました。

毎朝 8 時には国連のチャペルで礼拝がありました。日替わりで各宗派が担当し、礼拝は色々工夫がされていました。若い人たちは色々の楽器を演奏して生気あふれる礼拝を行い、おかげで彼らから“パワー”をもらいました。私は聖書朗読の機会を二回も与えられ、大変光栄でした。また、20 日間も断食をしてから参加したウガンダの女性が力強く説教したことには、皆、感銘を受けました。

ACC からの参加者は、毎日、どの会議に出席して、何を学び、何を感じたかというレポートを提出するよう求められました。

ACC の参加者は次のような 5 つの地域別のグループに分かれました。

1) 英語圏（アメリカ、イギリス、アイルランド、スコットランド、カナダ）
2) 南アメリカ（ポルトガル語圏）
3) アフリカ（参加者が多いため 2 つのグループ）
4) アジア・太平洋（日本、韓国、フィリピン、香港、インド、パキスタン、ニュージーランド、オーストラリア、アメリカ・インディアン）

そして、各々のグループがレポートの発表に基づいて、少人数でより深いグループ・ディスカッションをして発表することになりました。私たちのグループに与えられたテーマは「移民・移住労働者」についてでした。このため 4 回会合を持ち、

時には夜遅くまで話し合いました。昨年の夏、インドネシアから看護師が100人、介護福祉師が60人日本に来ましたが、3年以内に日本での資格を取らないと帰国しなければならないという条件に対し、他国の参加者からは「頭脳流出だとか、資格をとっても日本人と同じ条件で働くことが出来るのか」といった厳しい声が出ました。

各国の国連代表との話し合い

ACCからはさらに、会期中にそれぞれの国の国連代表と会って、今回の会議内容を報告したり、自国の政府にアピールをしたりするように指示がありました。これを“ミッション”と呼んでいました。日本からのNGOの参加者たちは、3月5日と12日の2回、国連代表部で会合を持つことが出来ました。会合には国連代表部から武川内閣府大臣官房審議官と目黒依子主席代表ほかが出席し、私たちの報告や要望に耳を傾けていました。

また、3月7日の土曜日にはニューヨークの街中にある聖ジェイムス教会のホールで一日中、この週に学んだ事をブレーン・ストーミングしました。ACCからは、参加者に対し、帰国後、政府や自治体およびそれぞれの教会に対し、今後の対策をしっかり行うよう訴えて欲しいという強い要望がありました。

Theological Reflections

ACCの参加者の内、地域別に分けられた5つのグループから一人ずつ選んで、最終日の「閉会礼拝」の準備をしたり、また聖書の箇所から“Theological Reflections”（神学的な振り返り・聖書の熟考）を延べる人に私も選ばれました。私が担当する聖書の箇所は「ルカによる福音書」の第10章30節から37節でした。有名な「善きサマリヤ人」の箇所です。

HIV/AIDSは性行為（特に同性愛）によって感染するので、日本ではどうしてもタブーの話であります。理屈では「いと小さくされた者」にキリスト的な愛を差し伸べなくてはならないことは良く分かっていても、それをタブー視してしまう傾向が自分自身にもあることを認めて、「善きサマリヤ人」になり切れない自身のジレンマを語りました。「善きサマリヤ人」のように、もっと積極的にHIV/AIDSの感染者に対して係わりをもつべきだと、反省をいたしました。

閉会礼拝

閉会礼拝はニューヨークの聖公会本部のチャペルで行われました。色々の言語で聖書の箇所が読まれました。佐々木さんと私は、第二日課の“ルツ記”の第1章の16節から18節までででした。たまたま、日本から番傘2本と晒しの日本手ぬぐいを2本持っていきましたので、それを利用して、嫁、姑の感じを出して日本語で演じました。

これからのこと

会議の最後に、帰国後、政府、地方自治体、およびそれぞれの教会に訴える内容を書いたレポートを提出するよう指示がありました。私はCSWに参加し、ACCで学んだこと、経験したことを教会に訴えたいと思っていたので、そのことを書きました。

その内容の第一は、教区はHIV/AIDSの感染者のための祈りの場を提供すべきだということ、また、その家族、パートナー、友人達が心置きなく集い、祈り、憩いの場を作るべきだということです。新約聖書の「マタイによる福音書」の第25章にあるように、社会で「最も小さくされた者」に私達は手を差し伸べるべきです。

第二には、日本の人口の21.5%は65歳以上という、まさに高齢者社会です。日本のクリスチャンは人口の1%以下といわれていますし、クリスチャンも高齢化しています。独居老人のクリスチャンが、同じ信仰を持つ人々と共に住み、周りに気兼ねなく祈り、礼拝出来る施設を供給してはどうかと思います。

第三は、昨年の秋以来“100年に一度”の大不景気といわれていますが、子育て中の若い主婦が家計を少しでも助けるために働きに出なければならない状態になっています。そんな時、小さな子どもを預かってくれる保育園が必要で

す。教会がキリスト教に基づいた保育施設をつくれば、小さい時に受けたキリスト教精神はいつの日かその人の人生に大きな影響を与えるでしょう。

キリスト教の現状と今後の展望という事を考えると、まず手近なことから、始めればよいのではないかと思います。

今後にむけて

前述したようにCSWの開催中、毎朝8時から、時には夜の8時近くまで会議が続き、またACCからは毎日、レポートの作成を求められるなど目の回る忙しさでしたが、一方では、学ぶ事も多く、予備セッションを含めた15日間は外の寒さを吹き飛ばすような充実した毎日でした。

ACCの参加者の中には、非英語圏から来た人たちも多くいましたが、流暢な英語で活発に意見を述べ、また、きびきびと行動する若い人々の姿が際立っていました。特に、アフリカからの若い参加者がパソコンを駆使して会議に参加していた様子には目を見張るものがありました。日本も今後このような国際会議で堂々と意見を述べることの出来る人材の育成が必要であると強く感じました。

最後になりましたが、本委員会へ参加に際し、管区をはじめ、多くの教会や個人の方々からお祈りと多大なご支援をいただきました。この場をお借りして心から感謝とお礼を申し上げます。

《新刊紹介》

「旅する教会」40話

加藤　博道 著

聖公会出版刊（本体1800円+税）

著者（日本聖公会東北教区主教）が東北教区教区報「あけぼの」に連載したシリーズに加筆して一書にまとめたもの。2003年10月から2008年11月までの5年間、もっぱら教区の信徒・信徒奉事者が教会の現実に対して「より深い興味をもって奉仕に参与され、またそのことを楽しんでいただきたい」と願って、聖公会という教会の礼拝と宣教に関する幾つかのことを40話にまとめて綴ったものである。

書名の「旅する―」は、第35話〈教会・宣教・礼拝〉に記された「旅する神の民としての教会（途上にある教会）」、第38話〈ランベス会議2008年の課題〉の一節「まさに聖公会全体が今、困難な「旅の途上」にあるわけで…」などに由っているのかと思われる。

本書「旅する教会」40話は、大体次のように構成されている。

①序論…第1話
②聖公会の基本精神と祈祷書…第2話～15話
③聖堂の歴史と刷新の必要性…第16話～25話
④礼拝の復興・刷新とその精神的系譜…第26話～31話
⑤教会の存在意義と祈祷書の改正をめぐって…第32話～37話
⑥ランベス会議2008年以後の課題…第38話～40話

⑦参考資料〈1〉「ウインザー・レポート2004」に関する日本聖公会主教会の応答 2005年2月
〈2〉1998年ランベス会議　ヒロシマ・デー 聖餐式（式文）

第1話から37話までは教区一人ひとりの信徒への語りかけを意識した平明な筆致と、教区報1回1話という程よい記述量によって、聖公会の歴史と今日的課題が綴られている。これは本書第一の特色である。これらの内容をより発展させるものとして、たとえば第31話「礼拝の復興・刷新とその精神（6）」で欧米聖公会の例として記されている、祈祷書と「併用」される礼拝書や、様々な人生の場面で用いる祈りの書などについての具体的な紹介と客観的な検討とが今後になされることを願うものである。

本書の第二の特色は、今日の「教会・宣教・礼拝」を論じた第32話～37話の各項に継続・連続する視点から、ランベス会議2008年の報告とこれ以降の諸問題が明確に記述されていることにある（第38・39話）。「第38回および39回は事後の報告として全面的に書き直しています。」と著者は注記しているが、この2項はまさに「旅する教会、旅の途上にある教会」を論じる本書のまとめの章として位置するにふさわしいものとして私は読んだ。また、参考資料として添えられている「ウィンザー・レポート2004」に関する日本聖公会主教会の応答 2005年2月 も全文を通読するのは初めてのこととあって一言一句熟読した。　　（管区広報主事・鈴木　一）